



容器包装の見直し ① 容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み（発生抑制）

ユニーで販売している商品の多くは、容器に入っていたり包装されていたりします。家庭で中身を取り出したあとの容器包装は、家庭から排出されるゴミの約60%を占めるといわれています。ゴミになってしまう容器包装資源の節約や、CO₂の発生抑制のために、ユニーは容器包装を見直しています。

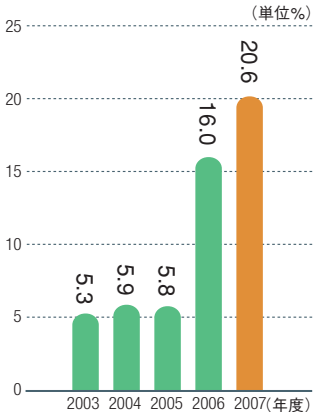


ノーレジ袋キャンペーン

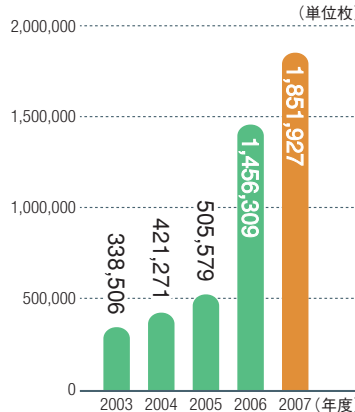
1989年愛知県一宮市で、レジ袋使用削減を目的として「お買い物袋持参運動」を開始し、お客様と一緒に廃棄物削減のために実施してきました。2001年からは、「何度も使っていただけるレジ袋」としてのマイバッグを、スタンプカード（スタンプ20個押印済み）と交換でプレゼントする「マイバッグキャンペーン」を実施しました。2006年にはさらにレジ袋を使わないお買物をすすめるために、装い新たに「ノーレジ袋キャンペーン」とし、従業員全員にマイバッグを渡し率先して使用したり、店内にわかりやすい表示をし、できるだけたくさんの人々に参加を呼びかけました。

その結果、2001年のレジ袋辞退率約3%でしたが、2005年には5.8%、2006年には16.0%と向上しました。

●ユニー全社のレジ袋辞退率の推移 (単位%)



●スタンプカード発行枚数 (単位枚)



●ユニー全社のレジ袋使用枚数 (単位千枚)

2003年度	320,744
2004年度	326,067
2005年度	340,611
2006年度	333,630
2007年度	310,559

●容器包装リサイクル法への対応

2003年度	1億4,900万円
2004年度	2億135万円
2005年度	2億5,487万円
2006年度	2億7,322万円
2007年度	2億9,729万円
2008年度	2億6,385万円

●レジ袋使用量・重量の推移 (全サイズのレジ袋の重量)

2003年度	お客様に適正枚数配布の教育実施	2,329t
2004年度	従業員全員にマイバッグ配布	2,242t
2005年度	愛・地球博エコマネーに参加	2,195t
2006年度	ノーレジ袋キャンペーン開始	2,075t
2007年度	レジ袋無料配布の中止	1,818t



レジ袋有料化

レジ袋無料配布の中止の取り組み

ユニーでは、レジ袋使用削減のためにノーレジ袋キャンペーンを推進してきましたが、お客様のレジ袋辞退率は約20%からなかなか伸びなかったため、レジ袋無料配布中止を地域の市民団体や自治体と一緒に取り組み始めました。2007年6月に横浜市緑区のユニー中山店で初めて実施した際には、「レジ袋が有料なんてサービスが悪い」とされ、かなり厳しいスタートになりました。このことから、レジ袋無料配布中止を実施するには、自治体や市民のみならずと十分に準備を整え、合意を得てから始めることにしました。



1 自治体が「廃棄物削減および地球温暖化防止」のためであることを広く市民に理解を求め、主体的に取り組むこと。



2 地域の市民団体が支援して下さること。



3 地域の小売り事業者などが皆で参加すること。

自治体・市民団体・事業者の三者がそれぞれの役割を果たすために、協議会を設立し十分に話し合い、協定書を締結するよう努める。

その後、2007年10月に名古屋市緑区、静岡県掛川市でレジ袋無料配布を中止しレジ袋有料化にして以来お客様のご理解と支援を受けてスムーズに実施され、辞退率も80%以上となり実施地域も着実に拡大してきています。